

第161関係様式

調 査 研 修 報 告 書

令和 5 年 12 月 16 日

大郷町議会議長

石川 良彦 殿

会派の名称 郷 政 会

代表者（議員） 熟海 文義



下記のとおり政務活動調査研修のため旅行したので、大郷町議会運営に関する基準第161の規定により報告いたします。

記

1. 期 間 令和 5 年 12 月 12 日～ 12 月 13 日 (2 日間)

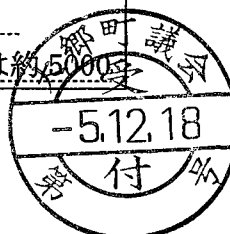
2. 調査地 宮城県川崎町キッズファーム、山形県三川町道の駅「荘内みかわ」、山形県舟形町役場、各道の駅

3. 所 感 川崎町のキッズファームは、地元企業の会長が、「家族 3 世代で訪れ楽しめる場所を作りたい」という思いで始めた事業です。自然を感じながら、遊び、小動物と触れ合うことができる場所です。料金設定も低くされており、週末には、仙台や山形からの家族連れで賑わうそうですが、経営はまだ赤字ということでした。

三川町の「荘内みかわ」は、平成 2 年の「なの花温泉田田」から始まり、宿泊施設、イベントホール、物産館、公園など徐々に拡大していき、温泉・宿泊・コンベンション・イベント機能を備えた、総合施設となっています。町は施設の修繕を行い、物産館とスーパー以外の管理運営を振興公社が行っています。3 施設の売り上げは年間 2 億円で、物販でないため人件費がコストの主となりますが、エネルギー費高騰の影響が大きいとのことでした。ただ、運営管理費として町が補助していないことはしっかり経営をしていると考えられました。

各道の駅を回りましたが、売り場がすっきり見やすく、回転率の高い商品構成になっており、在庫をおさえ、生産性が悪くはないという印象を持ちました。

舟形町役場ではふるさと納税の取り組みについて教示頂きました。人口は約 5000 人



人ですが、令和4年度の寄付金額は6億4842万円で、返礼品は米が約90%とのことでした。特にブランドにこだわってもなく、価格競争力もない米でした。その米で6億の寄付金を集めることができたのは、曖昧な言い方になりますが、「職員が当事者意識を持ち、常にアンテナを張り、機を逃さず行動する。執行部はそれを支援する。」その仕組みができていたからでした。また、企業版ふるさと納税では、成沢集学校を通して、納税額以上の効果をあげていることに感嘆いたしました。

今回の視察でつくづく感じたのは、現場職員の意見を吸い上げていく仕組みを作り、風通しの良い環境を作っていかなければならないということです。また、本町のような過疎指定の公共団体は公共サービスを継続していくためにも、「稼げる」公共団体にならなければならないと強く感じました。

※調査内容、出席者名、旅程表については、計画書と相違がある場合は、その内容と理由を明記したものを添付すること。